THE ザ・プレス PRESS 国際高

発行所
富山市願海寺水口444番地
富山国際大学付属高等学校
新聞部
ホームページアドレス：http://www.tuins-h.ed.jp
印刷所　北日本印刷株式会社

新校舎2期工事　正式命名

「東館」堂々完成へ

3月12日に新校舎竣工式

国際高新校舎の建設第2期工事（3階建て部分）は着々と進み、完成までいよいよ秒読み段階に入った。このほど正式に「東館」と名付けられた真新しい校舎は、1月に入って外観を覆っていたシートや作業用足場が次々と外され、その姿を出現。新聞部の取材によると、工事はほぼ終了しており、2月初旬の検査などを経て、2月中には使用できるようになる見込みだ。

昨年完成した「本館」＋「東館」で、ほぼ完全な形になる国際高新校舎の竣工式は3月12日に予定されている。

【新聞部新校舎取材班】

続・新校舎潜入ルポ

堂々の姿を現した東館（右側）。上部にある英語の校名は夜にライトアップされる

新聞部では前号（11月号）にひき続き、㈱竹中工務店のご厚意で1月23日の放課後、完成間近の「東館」内部に入れていただき、全力取材した。

第1期工事校舎（5階建て部分）との間を隔てていた壁が昨年末に取り払われ、東館の内部は部分的に見えるようになっていた。1階の接続部分は、エントランスホールがさらに広くなった感じ。ガラス扉を開けると、情報室と普通教室がそれぞれ2つずつある。まだ仕上げ作業中だったが、内装・設備工事はほぼ完了している様子だった。なお、1階廊下のつきあたりは自動ドアで、自転車置き場の方から出入りできる。

次に2階へ。南側にある広々とした部屋は図書室だ。綺麗なカーペットが敷いてある床の上にはまだ何もなかったが、今後、書架や机などが入ると図書館らしくなることだろう。プロジェクターで映像などを鑑賞できる閲覧室とは可動式の間仕切りでつながっていた。また、2階には生徒が自学自習できる学習室や、気軽に相談できる相談室などがあった。

さらに3階へ。五線譜が引かれた真新しい黒板が付いた新・音楽室は、二重サッシや防音扉、吸音壁などの防音設備を備えた教室。窓を全部閉めると、外の音が全く聞こえなくなった。そして、案内してくださった㈱竹中工務店の村瀬さんが「いちばん力を入れましたこだわりの設計です」と力を込めて話されたのは、茶室や和室を完備する国際交流室。ここにもプロジェクターが備えられ、外国から来た留学生に日本の歴史や文化を教える設備がさらに充実した。なお、各階の東面南側は全面ガラス張りになっており、「ここから立山連峰がキレイに見えますよ」と村瀬さん。純和風な造りの茶室や和室にはちょうどこの日に真新しい畳や障子が入り、とてもよい香りがした。造作だけでなく、照明や空調にも工夫が凝らされ、まさに国際高ならではの誇れる設備が出来上がっていた。

第1期工事の時からお世話になった㈱竹中工務店の村瀬さんは、いつも笑顔を絶やさずに新聞部の取材に応じてくださった。「第2期工事は、あとはクリーニングだけなので、完成度は99・5%ですね」と、とても嬉しそう。また、「第1期工事校舎は、壁が白1色だったのでちょっと汚れが目立つ所がありましたが、第2期工事では上下で色分けして下の方を少しグレーにしました。生徒に、汚れに対してより関心を持ってもらえると思っています。いつまでも綺麗に、大事に使ってほしいですね」と「作品」に対する熱い想いを語っていた。

新聞部が総力を挙げて続けてきた新校舎建設工事の取材も、これで最後になる。着工当時から見守ってきた新聞部としても、この東館完成はとても喜ばしい。国際生の学校生活が、より豊かになるのは間違いないだろう。これからの勉学に一層、力が入りそうだ。

南東側から見た東館。ここからの立山連峰の眺望はすばらしい

特集

楽しさ満喫！ 2年生 研修旅行

2年生は今年も12月17～22日の間、海外3、国内2の計5コースに分かれて研修旅行に出かけた。各コースに参加した新聞部員（＋α）による紀行文と写真を掲載する。

オーストラリア

雄大な自然と独自の文化体験

かわいいカンガルーと触れ合う

オーストラリアでは、雄大な自然と独自に育まれた文化を体験してきた。

現地での1日目は、世界遺産にも指定されている世界最大のサンゴ礁、グレートバリアリーフの上に浮かぶ島、グリーン島を訪れた。午前中はグラスボートで美しい海中の風景を楽しんだ。午後からは自由時間で、生徒たちは海に入ったり島を散策したりと、思い思いに楽しんだ。

2日目は、現地の大学生と市内を散策し、必要な食材などを購入した後、バーベキュー場でオージー流のバーベキューを楽しんだ。午後からは自由時間で市内を散策した。

3日目は、世界遺産に指定されている熱帯雨林に囲まれたキュランダ村を訪れた。午前中は、この地域で古くから生活しているアボリジニ、ジャプカイ族の歴史や文化を体験できるテーマパークであるジャプカイ・アボリジニ・カルチャーパークを見学した。伝統楽器の演奏やダンスなどを交えてジャプカイの間で語り継がれてきた創造神話や文化を学んだほか、やり投げやブーメラン投げを体験した。午後からは世界遺産の熱帯雨林上を通過するロープウェイ、スカイレールに乗ってキュランダ駅へ向かった。レインフォレステーション・ネイチャーパークでカンガルーなどの動物と触れ合い、水陸両用車で熱帯雨林内をまわった後、国立公園内を走るキュランダ高原鉄道に乗って雄大なオーストラリアの風景を楽しんだ。

4日間を通して現地の文化を存分に体験することができた。

【新井翔大】

シンガポール

充実した4日間

12月19日の早朝、私たちはシンガポールに旅立った。日本の12月とはまったく逆で、真夏のシンガポールとの気温差にみんなでびっくりしていた。初日は嵐のような大雨だったが、2日目からは雨も降らずに楽しい時間を過ごした。

私たち国際英語コースは2日目の夜にテーブルマナーを学ぶため、女子はドレスに着替え、男子はスーツか制服に着替えてレストランに行きディナーを食べた。コース料理に慣れていない私たちは、最初に出てきたパンをすごい早さで食べてしまった。しかし、大抵の人が食べ終わった頃にバターが登場。きっとレストランのスタッフはパンをもう食べ終わっていることに驚いたことだろう。レストランではレディファーストが原則らしく、何をするにしても女性が先だった。

最終日はマレーシアに行き、班に分かれて地元の家庭を訪問し「文化体験」をした。お母さん特製のケーキを食べて紅茶を飲み、民族衣装を着せてもらってカレーを一緒に作り、マレーシアのゲームを一緒にした。食後のおやつには庭の木になっている実を食べさせてもらった。とてもおいしく何個も食べてしまった。国際高にもこの木を植えてほしいと思った。

最後には、長く大きい葉を編んで作るマレーシアの飾りの作り方を教えてもらった。とても難しく、結局はお母さんに作ってもらった。マレーシアでは日本語はもちろん、英語もまったく通じなかったが、とても楽しく充実した4時間だった。

【門田莉佳】

→これからフェリーに乗ります＝伊江島

↑名物マーライオンの前で記念撮影

台湾

異文化にカルチャーショック

中正紀念堂の前で

研修旅行では海外に行くことを決めていた私は、距離的に近く、親日国家のため日本に似ているだろうし、国内と同じ感覚で行けるだろうと軽い気持ちで台湾に行くことを決めた。しかし実際は日本と違うことだらけで、幾度もカルチャーショックを感じさせられた5日間だった。

箸の違いに始まり、道路が右側車線であることや、繁華街を平気でバイクや自動車が素通りする光景を目の当たりにし、日本の常識が世界の常識ではないことを知らされた。料理もほとんどが口に合わず、初めて何気なく食べていた日本食に恋しさを覚えたこともあった。

また、台湾は昨年の大震災の際に、世界で一番義援金を送った国として知られるほどの親日国家だが、実は日本と中国の国交回復が台湾にとっては国交断絶であり、一時期反日が増えた、と台湾の大学の講義で聞いた時はとても驚いた。

そんな台湾だったが、この旅行で得たものは数多くある。一つ一つ書いていくと困難を極めるが、一つ挙げるとすれば「今まで知らなかった台湾の側面を知れた」ことだろう。今まで漠然としか知らず、メディアで報道されることがイコール台湾の知識だったため、忠烈祠、淡水市内、鳥来など、様々な観光地を実際に目で見て、その度に自分の知らない台湾に出会えて感動した。

【笹戸絵都子】

沖縄

美ら海に感動

小松空港から飛行機に乗りました。窓側の席だったので外の景色が良く見えました。雲が下に見えて、青い海も見えて綺麗でした。富山市は寒かったけれど、那覇空港に着いた時、とても暖かく感じました。また、沖縄の海はさらに綺麗な青い海だと思いました。

研修1日目は、フェリーで伊江島に行き、民家に宿泊しました。沖縄ならではのソーキそばを食べました。また、民家でサーターアンダギーを作りました。揚げる時は難しかったけれど、とても美味しいと思いました。

マリンスポーツをした2日目は、伊江島のビーチを友人と散策しました。その白い砂浜には、沢山の貝殻がありました。中には、珍しい貝殻もあり驚きました。

3日目には、美ら海水族館を見学しました。巨大な水槽の中にジンベエザメが泳いでいて、とても凄かったです。ホテルチュラ琉球に泊まり、部屋のみんなとトランプをしたりして楽しみました。

最終日は、首里城を見学しました。あいにくの雨でしたが城の色が鮮やかでした。

沖縄は、海は綺麗で、食べ物も美味しく、暖かい空気を感じました。また、いつか旅行したいと思いました。

【Y－】

屋久島

自然あふれる世界遺産

屋久島は自然があふれた所だった。面白かったことは、私たちが考える常識が通用しないことだ。例えば、私たちは川の水がきれいであれば魚がいると考えるが、屋久島ではこれはあてはまらない。なぜかというと、屋久島は雨の多い地である。その雨が常に魚の栄養となるものを流していく。つまりどんなにきれいな川にも魚はいないらしい。

他にも、硬い花崗岩が多く見られたが屋久島のものは粒が粗く石材に向かないものだということや、大きな木が必ずしも長寿でないということなど、屋久島では私たちの常識は通用しなかった。

そんな屋久島でいつか行ってみたい場所がある。それは縄文杉である。縄文杉のように遥か昔から存在するものを見る機会はほとんどないので、ぜひ行きたい。

【S.N】

トレッキングで行った「太鼓岩」で

かざぐるま

1月14・15日、今年も大学入試センター試験が行われた。毎年のようにどこかの試験会場でトラブルがあるが、今年は過去最大だった。影響を受けた受験生は全国で58会場、約4500人にも及んだという★富山大学の会場でも地理歴史と公民の問題用紙の配布が遅れ、開始時間が1～5分繰り下がって660人に影響が出た。宮城県ではリスニングのICプレーヤーが1時間前にも関わらず届いていなかったりと、前代未聞のミスも起きた★地理歴史と公民は、今年から試験方法が変更された。しかし、試験監督側がその変更を十分に把握せず、配布や説明に時間がかかったようだ。開始時間になっているのに試験が始まらない、問題が配られないというのは受験生にとってものすごく精神的なダメージになっただろう★何故、こんなトラブルが全国で起きてしまったのか。試験監督への周知不足の他に、試験の内容が複雑化し、受験方法、携帯電話の取り扱い、地理の問題の訂正など、様々なことの受験生への説明にも予定以上の時間が必要になったという。富山大学でも、大学入試センターの指示通りに配ったら遅れてしまった」と発表している。宮城県の事例では、職員のリスニング機器の確認ミスで試験が2時間も遅れてしまった。確認ミスや把握不足など、初歩的な「ヒューマン・エラー」が目立っている★私たち高校生にとってセンター試験とは、その後の人生を決めてしまうかも知れない極めて重要な試験。試験会場側の小さなミスが受験生の集中力を切らしてしまうことが、受験生にとって一生に残るような後悔を生じさせかねない。来年からはこのようなことが二度と起きないようにしっかり改善して、受験生が十分に力を発揮できるような試験運営を徹底してもらいたいものだ。

【松森隆一】

昨年は東日本大震災が印象に

2012年がスタートした。新年の初めということで、皆さんの心も引き締まっていることだろう。そこで新聞部では毎年恒例、国際生と先生方に今年の抱負や、2011年がどんな年だったか聞いてみた。

昨年は東日本大震災など暗いニュースも多く、それに関する意見が多く見られた。皆さんにとって、2012年がよい年になりますように。

2012年の目標 文武両道で成績UP！

国際生&先生 恒例 新年アンケート

2011年の漢字に選ばれた「絆」。さて、今年はどんな年に？

Q1　今年の目標は何ですか？

1・2年生の回答で多く見られたのは、「文武両道」「成績向上」といったものだった。昨年を振り返って、成績に満足が行かなかった人もいたようだ。また3年生は「大学で充実した生活を送る」「一人暮しを頑張る」など、卒業後の進路に向けての目標を挙げている人もいた。

【先生編】

・屋上菜園での収穫（豊島先生）
・健康になること（上野先生）
・ダイエット、充実した私生活（新堂先生）
・新しい挑戦（新村先生）
・先進的なものにチャレンジしたい（橋本先生）
・女子サッカー部が全国大会で一勝すること（横山先生）
・庭を整備すること（堀一先生）
・平常心で生活すること（草島先生）
・3千m級の登山（藤木先生）

Q2　どんな初夢を見ましたか？

生徒たちの回答の中には、「見ていない」という人や、「覚えていない」という人が多く見られた。「見た」という回答の中には「スノーボードに行く夢」「おばあちゃんの家に行く夢」など日常的な夢を見た人や、「ポケモンに会った」「ドキドキ、ワクワクした冒険の夢」などと新年からいい夢を見た人や、「恐竜に頭を食べられる夢」「前歯に激痛が走った夢」などといった、新年から縁起の良くない夢を見た人もいたようだ。

【先生編】

・仕事でてんやわんやになっている夢（新堂先生）
・家族の夢（新村先生）
・女子サッカー部が全国高校総合出場（横山先生）
・外国人の友達と久しぶりに会った（ワン先生）
・毛が生える夢（田畑先生）
・ヘビが出てくる夢。いい夢らしいけど…（河上先生）
・悲…色々な悲しいことがあった（ワン先生）

Q3　あなたにとって去年を漢字一字で表すなら？

どの学年でも多く見られたのが、昨年末に漢字検定協会で「今年の漢字」に選ばれた「絆」だった。さらに、東日本大震災の影響もあってか「災」「苦」「難」などの言葉も挙げられていた。

1年生の回答の中には「新」「慣」と、高校生活の始まりや新しい環境に慣れるということを表す漢字を挙げた人もいた。

【先生編】

・整…気持ちを整え、身の回りを整えた一年（豊島先生）
・壁…色々な壁にぶつかった一年でした。今年は壁を乗り越えたい！（上野先生）
・郷…久しぶりの富山（中田悟先生）
・忙…常に忙しかったから（橋本先生）
・試…いろいろと試してみたから（作農先生）
・進…後ろを振り向かず、前へ進んでいるから（横山先生）

Q4　去年、印象に残ったニュースは何ですか？

Q3でも見られたように震災に関連するニュースが多く印象に残ったようだ。他にも富山で起きた「えびす食中毒事件」や、芸能界の「島田紳助引退」というニュースも大きく報じられ、国際生の心に印象を与えたと考えられる。

【先生編】

・東日本大震災（上野先生）
・大震災と、竹田・大沢先生のご結婚（新堂先生）
・米国デフォルト危機（橋本先生）
・ニュージーランド（クライストチャーチ）の地震（ワン先生）
・スペースシャトル計画終了（小嵐先生）
・震災、民主党（中川先生）

Q5　お年玉の使い道は？

主な回答は「貯金」だった。国際生の大半はお年玉の使い道に慎重で、堅実みたいだ。他には「洋服」「Kポップ のCD」など自分の趣味に使う人や、3年生の中には「卒業旅行」「大学の学費」といった使い道にあてる人もいるみたいで、人によってお年玉の使い道は様々なようだ。

○続・海外特派員通信　日本の良さを見直す日々

前田瑞紀さん（21H）

毎回好評の、海外留学中の国際英語コース生による「海外特派員通信」。今回は、昨年8月からアメリカ・ミシガン州のLapeer高校に留学している前田瑞紀さん（21H）に伝えてもらう。

アニメクラブのメンバーと写真におさまる前田さん（前列右）

国際生の皆さん、お久しぶりです。アメリカのミシガン（Michigan）州に留学中の前田瑞紀です。留学生活も半分が過ぎ、今月末にはfinal examを控えている私ですが、Americaに来てからのこの5か月間は本当にあっという間でした。学校生活や、アメリカの異文化体験など、話したいことは山ほどありますが、まずは学校のことから…。

皆さんご存知かもしれませんが、アメリカでは自分で時間割を決めることができます。1学期の間、私は〝ガッツリ勉強しますよぉー（^q^）〟な感じの授業はかり取っていたので、2学期からは、Art、Ceramics、Concert Bandなど、自分で何かを創作したり、楽しめる授業を多く取ることにしました。他にも、engineeringやaerobics、theater、ラテン語、スペイン語など、日本の高校にはない教科が沢山あって、選ぶのには苦労しました(笑)。

私は一度、ホストチェンジをしたのですが、前回のhost family（Chinese American）と現在一緒に暮らしているhost family（African American）では、同じアメリカ人でも、異なる習慣や話し方（アクセント？）があったり、クリスマスや正月など、同じ行事でも意味合いが違ったりと、やはりアメリカは人種の坩堝（るつぼ）だということを、身をもって体験しました。

アメリカに来てからよく感じることは、人とのつながりがとても大切だということと、日本にいるときよりも、より日本のことを知ることができるということです。人とのつながりは、お店での会話や、道ですれ違ったとき、知らない人にでも必ず笑顔で話しかけるというアメリカの習慣から感じることができます。また、ずっと手紙のやりとりをしていた、(1年生の夏に研修でホームステイしていた）オレゴンのホストファミリーからクリスマスプレゼントが届いたときも、人とのつながりは本当に大切なんだなと感じました。最近はアメリカの生活にも慣れて、日本についてのプレゼンテーションをする機会が増えてきました。友達からの何気ない質問に答える度に、日本人の習慣やアメリカ人とのちょっとした違いに気づかされます。〝なんで？〟と聞かれるたびに、知っているつもりでいた日本のことに気づかされる日々です（笑）。

もうすぐ2学期が始まります。これを機に、今までとは違う、新しいことに挑戦していきたいと思っています。その第一歩として、春からシーズンのラクロスを始めることにしました。残りの留学生活も有意義なものにできるよう、努力している（ような気がする…）日々です。

学生時代

将来の夢と一生の友達ゲット！

川口真裕子 先生
（写真右。昨年2月、卒業旅行で訪れたフランス・エッフェル塔の前で）

大学の入学式の日、私は黒の新しいスーツを着て、これからの学生生活への緊張と不安、そして、わくわくした気持ちを胸に部屋を出ました。学校の周辺が部活動やサークルの勧誘をする人たちで溢れ返っているのに圧倒されたことを覚えています。

新しい環境、初めての一人暮らし、学生生活への期待と不安から始まった大学時代でしたが、最初の1年目は、とにかく生活に慣れるのに精一杯でした。まず大学では、時間割が用意されているわけではなく、自分で興味がある科目を選択して時間割を組むことに驚き、自分で責任を持って行動しなければならないことを実感しました。また講義も、高校までとは違って、ただ話を聞くだけではなく、自分で調べて答えを導き出さなければいけないことが多く、最初はやり方もわからず戸惑いました。それでも、何度もこなすうちに自分の力になっていくのが感じられ、勉強するのがとても楽しくなりました。家での炊事・洗濯・掃除なども同様で、最初はなかなか効率よくできなかったけれど、少しずつ工夫していくうちにスムーズにできるようになりました。

2年目は少し余裕が出てきたので、家の近くのラーメン屋でバイトを始めました。2年生の間はほとんどバイト三昧だったように思います。自分で働いて初めてのお給料をもらった時は、とても感動しました。

そうしてまた一年が過ぎて3年生を迎えましたが、この年は私にとって転機となった年でした。ある教職の先生と出会い、「教師になりたい」という夢を持つことができたからです。この先生と出会うまでは、将来に明確なビジョンを持てずにいたけれど、実際の教育現場の話や生徒たちとの日常生活の話を聞いて、私もこの先生のようになりたいと思うようになりました。

最後の学年である4年生では、母校である高岡南高校で教育実習をしたことが一番印象に残っています。3年生になってやっと持てた「教師になりたい」という夢でしたが、実際に実習をしてみると、とても大変でした。でもそれ以上に喜びや楽しさがあり、「教師になりたい」という気持ちがいっそう強くなりました。

ここまでを振り返ってみると、凄く真面目に勉強だけを頑張ってきたように思えますが…もちろん、友達ともたくさん遊びました。運のいいことに、同じ趣味の友達と出会うことができ（それも入学式で席が隣だった子！）、一緒にいろんな所に出かけました。私は大学生活の4年間を京都で過ごしたので、土日はいろんなお寺や神社を散策しました。御所や大童寺、東福寺などが印象に残っています。他にも、大学主催のスキーキャンプや沖縄旅行に参加しましたし、友達と出雲旅行にも出掛けたし、何度かUSJにも行きました。最後には、卒業旅行としてイタリアとフランスにも行きました。

こうしてみると、私の大学生活はとても充実したものだったように思います。私にとっての大学生活は、「将来の夢」と「一生の友達」を得た、かけがえのない時間です。

「協力し合いながら活動できた」

ボランティアに当たる人々＝宮城県

浜岡さん 平野さん（21H）

震災ボランティア参加

東日本大震災の被災地支援ボランティアに、浜岡瑛里子さん（21H）＝**写真左**＝と平野優美さん（21H）＝**写真右**＝が参加し、冬休み中の12月25・26日の2日間、被災地の一つの宮城県南三陸町で作業に当たった。新聞部では、2人にインタビューを行った。

震災で被害が大きかった宮城県では、現在もまだ所々に瓦礫が残っている状態。2人が参加したボランティア団体「アジア子どもの夢」のもとには約25人が集まり、現地で豚汁やぜんざいの炊き出し、仮設住宅の入居者訪問、フリーマーケット開催などに取り組んだ。約半数が初参加だったようだが、全員で力を合わせて活動できたそうだ。

2人がボランティアに参加しようと思ったきっかけは、本校で開かれた11月の国際理解講座。ボランティアには前々から参加したいと思っていたものの機会がなかったが、たまたま国際理解講座でこのボランティア団体の講演を聞いたことが決意に後押しをしたそうだ。

南三陸町は今でも震災の跡が色濃く残っており、その光景を見た時は言葉が出なかった、と語る2人は「他の参加者と全員で協力し合い活動できたこと、現地の人から『遠い所からわざわざ来てくれてありがとう』と声をかけていただいたことがうれしかった。寒さが予想以上に厳しかったです」、「他の参加者と仲良くなれて、一緒に活動できたのでうれしかった。色々と勉強になりました。次回も参加したい」とそれぞれ答えてくれた。

みなさんも機会があればボランティアに参加してみよう。

【門田莉佳】

部説　武器規制緩和と日本の「平和主義」

昨年末、野田内閣は武器の輸出を原則禁止とする「武器輸出三原則」を大きく緩和した。これにより、アメリカ、オーストラリア、韓国など安全保障面で協力関係がある友好国との共同開発及び生産への参加、平和構築・人道目的に限った装備品の海外移転が可能となった。

その理由として、藤村官房長官は談話の中で、国際平和協力やテロ、海賊問題などへの対応、アメリカをはじめとする諸国と国際共同開発することで防衛産業の基盤の維持、高度化とコスト削減が望めると言っている。

具体的には、今までできなかった諸国との共同開発により、世界最高水準の技術共有が可能となる。これにより、ミサイル防衛システムや航空機の分野において、かなりの発展が望めるだろう。他にも、今まで武器として扱われていた地雷除去装置なども、人道支援の為に輸出ができるようになる。

自衛隊にとっても、これまで装備品が輸出規制の武器に該当したため、国外に販売して生産数を延ばすことができず、生産数の少なさ自体が装備の信頼性の低さに直結されていたが、緩和により生産数を延ばす事ができ、それが信頼性の向上にもつながる恩恵がある。

しかし、それにはデメリットも多々存在する。よく言われることの中には、日本の防衛に特化した装備品の開発が困難になることが挙げられているが、何よりも「平和国家」の概念を崩しかねないことが一番の難点だろう。

日本政府が1967年に三原則を表明して以来、度々個別の「例外」についての緩和はしてきたが、今回は個別に指定しない、抜本的な緩和となる。前述の談話の中で、輸出するものは殺傷目的に使われる可能性が低く、人道目的に限った装備品のみに限定しているが、あくまで「可能性が低い」だけであり、それらが武器として戦場で使用される可能性も大いに考えられる。そうなってしまえば、憲法第9条で示された平和主義の理念を骨抜きにしかねない。

日本は核兵器の被害国として、また、戦争放棄の平和憲法を保持している唯一の国である。どの国とも戦わない、平和第一という考えは日本人に根付いた概念であり、また世界に誇るべき立場と役割を生んでいることだろう。それを今回の緩和により放棄してしまえば、日本のアイデンティティの喪失にもつながる。

また、前述の談話の中では、国際紛争を助長しないという「基本理念の堅持」を掲げていた。しかし紛争を助長しなくても、外交面においての危険性は十分にあり得る。例えばアラブ諸国は反米が多いが、反日の意識はそれほどない。もし、日本がアメリカと共同開発した武器を、アメリカが同盟国のイスラエルに売却した場合、それこそ諸国から反日の意識を持たれ、中東外交が揺らいでしまうだろう。そういう面でも危惧することではないだろうか。

武器規制緩和によって日本の「平和主義」に大きな揺らぎを持たせたことで、日本どころか世界にまで影響を与えることを考えれば、この出来事はとても危険性が強いことを知ってほしい。

【笹戸絵都子】

クローズアップ　野球で人として成長

野球部前主将 澁谷（しぶや） 晃（あきら）くん（36H）

☆プロフィール
生年月日　1993年6月15日　星座　双子座
血液型　AB型　出身中学　富山市立北部中学校

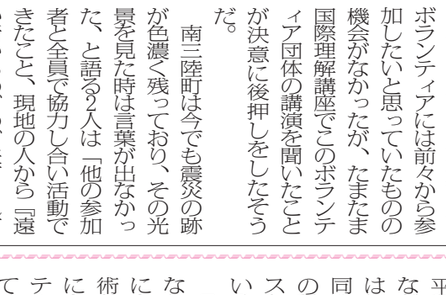
今回の「クローズアップ」は、野球部前主将の澁谷晃くん（36H）＝**写真右から2人目**。昨年、国際高野球部を県大会で春一優勝、夏一準優勝に導いたチームの大黒柱だ。新湊高校を相手に堂々と健闘した夏の決勝戦を振り返り「やっぱり、いちばん印象に残っています。みんなで野球をやる最後の試合でした。本当に、あのメンバーで甲子園に行きたかった。悔しかったです」と語ってくれた。

澁谷くんが野球を始めたのは小学校4年生の時。「兄が始めたので、ついでという感じ」だったそうだ。国際高での高校生活はさぞ野球一色だったと思いきや「野球だけでなく、学校生活を少しでも良くしようとしたり、家での生活を見直したりと、人間として少しは成長したと思います」と、野球のみならず、充実した3年間を送ったようだ。

野球部の後輩には「1日1日の練習をしっかりこなし、悔いの残らぬように野球に打ち込んでほしい。昨年大躍進を遂げたチームをまとめてきた主将は、後輩たちにその夢を託す。

編集手帳

濱辺先生に男児ご誕生



濱辺沢子先生（英語）に12月6日、第一子が誕生した。身長46㎝、体重2826gの元気な男の子で、名前は逞（たくま）くん＝**写真**。ご主人が決めたという名前の由来は「旦那様の母校の千葉習志野高校サッカー部の部訓の中に『逞しく』というのがあり、そこからとったようですよ」とのこと。昨年7月8日に切迫流産と診断され、突然入院となって「どうなることかと不安な日々を送っていました」と語る沢子先生は、無事に元気な逞くんが産まれて心から喜んだそうだ。

出産にはご主人が立ち会われ「水をくれたり汗を拭いてくれたりして助かりました。産まれた直後、『感動した！』と言ってましたね」と話してくれた。

眠れず、赤ちゃんにつきっきりの日々は大変だそうだが、逞くんの顔を見るたびに心が温かくなり、幸せをもらっているそうだ。「早くパパとサッカーをする姿を見たい。名前に負けず、逞しく人生を歩んでほしいです」とお子さんへの熱い思いを語っていた。

ビーバー成長回でしたね。
Yさん

身長が伸びますように…
みー

編集後記を書いていいのかな…
オセロ

みなさん、1人1記事でお願いします。
まっつん

イーブンマネー!!　Worry
高校生になって初めてのインフルエンザ…
少年

ビーバー

ナメコ栽培なう。双子ナメコ発見。
りーこ

2のスパショ東京行きたいのに東京が怖いです。さーや

年中無休の睡眠欲
えーちゃん

楽しかったような…。
ビーバー